

口頭試験再現

平成 30 年度 総合技術監理部門（建設－河川、砂防及び海岸・海洋）

試験日：平成 31 年 1 月中旬（試験時間：約 20 分）

場 所：フォーラム 8

試験官 A 左（50 代前半 技術士会風 進行役 主に総監技術担当）

試験官 B 右（60 代前半 役人風 主に専門技術担当）

※いずれの試験官も温厚で和やかな感じであった

（雑談無し）

試験官 A：経歴と業務詳細について、5～6 分程度で説明してください。

わたし：まず、経歴について説明させていただきます。

平成〇〇年度に民間のコンサルタント会社である株式会社〇〇〇〇に入社し、主に洪水予測システムや水災情報システムといった河川情報にかかる企画・設計及び開発の管理業務に携わりました。

入社 1 年目のうちは一担当者として与えられた作業を時間内にミスなく管理する、つまり工程管理と品質管理をバランスよく管理することに注力しました。

2 年目に入った頃からは、主担当技術者として一つの業務全般を任されることが多くなり、作業をしてもらう後輩やアルバイトさんの能力発揮のための人的資源管理をしたり、下請けさんも含め個々の作業の進捗管理を把握して意思決定するための情報管理を行うようになりました。

さらに 6 年目になった頃からは、管理技術者として一つの業務を管理することが求められ、工程管理、品質管理、原価管理のバランスを保つ経済性管理に加え、人材の活用（人的資源管理）や意思決定のための情報収集整理の仕組みづくり（情報管理）、労働安全衛生上の備え（安全管理）、そして環境負荷低減への取り組み（社会環境管理）といった 5 つの管理を行いました。なお、これらの管理は互いに密接に関係しているため、業務全体を俯瞰的に把握・分析し、総合的な判断を行う場面が多々ありました。

社会人 8 年目で地方公務員に転職してからは、コンサルタントとは立場が変わり、事業主体として道路整備事業や河川改修事業といった企画・計画から整備・維持管理に至るまでの時間スケールの長い事業の管理を行うようになり、コンサルタント業務の管理技術者や工事の現場代理人を監理するようになりました。昨年度からは、新規に実施する河川改修事業を任されており、昨年度から今年度にかけて測量・調査・設計および用地といった工事実施前の多くの業務を並行して監理すると同時に、個々の業務の監理だけでなく、これらの複数業務間調整も行うようになりました。

また、経歴票に詳述させていただきましたが、平成 29 年には県内でも災害が多

く発生し、〇〇管内の河川災のリーダーを任せ、災害査定に向けた設計積算業務全体の総合的な監理を担当しました。

次に、経歴の最後に紹介しました業務詳細について説明させていただきます。本業務では、発災から概ね 2 か月以内に実施される災害査定日が決まっていたため、査定当日に必要な設計積算資料一式を揃えるための工程管理が業務全体としての最重要管理項目でありました。ただ、申請箇所数が 10 数箇所と多い中、河川係のみでの対応ではそのリソース不足から、査定までに必要な書類が揃わないことが懸念されましたので、負荷計画の取り組みとして、他の係への応援要請を行い、必要工数に必要な人員を確保しました。しかし、増員した職員の中には災害査定の実験が無い職員もいたため、スキル不足に伴う設計積算ミスによる工期遅延が懸念されました。そこで私は事前に短期教育を行い、査定設計の基礎を理解させ、その上で、河川災における設計上のポイントや留意点をまとめたチェックシートを作成してこれに沿って設計積算を進め、熟練職員 2 人によるチェックを逐次行うことで、工期遅延に繋がる重大手戻りミスを防止しました。さらに、適切な進捗管理を行うため、毎日の朝礼時に各担当職員より現在の進捗状況や課題等を所定のフォーマットに記入・提出することによる報告を義務付け、それらの情報をもとに、限られたリソースの再配分やスキル不足職員への再度教育を行うことで、業務全体としての工期遅延を防止しました。結果、査定までに必要な設計積算資料一式を揃えることができました。

試験官 A：災害対応大変だったと思いますが、みんな付いてきてくれましたか。

わたし：今直面している災害対応の業務は自分たちでしかできないものであるということを経験の開始時点および週初めの朝礼時に繰り返し説明し、理念的インセンティブを付与することでモチベーションの維持向上を図りました。

試験官 A：その取り組みは貴方自身が考えてやられたのですか。

わたし：はい。

試験官 A：この（業務詳細での）経験を踏まえ、何か改善策はありますか。無ければ、これまで経験された他の業務での失敗例でも良いです。

わたし：今年度の西日本豪雨や台風 21 号による風水害、および大阪や北海道で起こった地震による被害等をはじめ、近年全国各地で毎年のように災害が発生している状況であります。こういった状況の中、我が県においても今後ますます災害復旧関連の事業が増えてくると見込まれるため、少なくとも技術職員については、誰もが災害復旧に関する一通りのスキルを身に付けておく必要があると考えています。つまり、今後組織として、そのような外部条件の変化を踏まえた対応、具体的には技術職員の災害復旧スキル向上に向けた教育訓練計画をしていくべき

と考えています。

試験官 A：経済性管理のコスト管理について、民とは違い官は予算をいかに消化するかという発想になりがちであるが、何か心がけていることはありますか。

わたし：例えばある事業に対し、昨年度と今年度で同じ予算が配分された場合、昨年度よりもサービスが向上できるように自身も努力していますし、部下にもそのような意識付けになるよう教育しています。

試験官 A：仮に貴方が事務所の所長であったとして、管内で水害や地震等の大きな災害が発生した場合、まず第一にどのような対応をしますか。

わたし：災害対応にあたる職員の安否確認をします。

試験官 B：職員の安否が確認でき、無事に登庁した後の対応はどうか。

わたし：被災状況や県民の安否確認等の情報収集を指示します。

試験官 A：民間から公務員に転職されていますが、プライベートな理由以外で何かあれば、お聞かせください。

わたし：技術者のキャリアという点では、事業主体として事業の企画・計画・設計・工事・維持管理・廃棄といったライフサイクル全体に携われる公務員技術者に魅力を感じたためです。

試験官 A：民間と公務員における業務管理について、どのような違いがあるとお考えですか。

わたし：民間は業務における担当者や下請け等を「管理（たけかん）」するのに対し、公務員はそれらの業務を管理する管理技術者を「監理（さらかん）」することになると考えます。

試験官 B：現在、地方公務員で仕事をされていて、ハッピーですか。

わたし：はい、非常に充実しています。

試験官 B：貴方の組織はどのような構成ですか。

わたし：（組織構成を答える）

試験官 B：貴方が今よりもっと上の立場になったとき、どのようなことをしていきたいですか、何か夢はありますか。

わたし：上の立場というのは、例えば部長とかでしょうか。

試験官 B：その設定で良いですよ。

わたし：やはり〇〇県の職員ですので、〇〇県に魅力を持ってもらえるような取り組みや

発信をしていきたいと考えています。具体的には、私の専門は治水計画や水防災ですので、ハードもソフトも含めてですが、水害に強い県土づくりを推進していきたいと考えています。

試験官 B：貴県における水害に対する備えはどうか。

わたし：ハード整備でいくと、年超過確率 1/10 の整備率が 50～60%であり、まだまだですが、避難計画作成等の地域で水害に備える対策の推進や水害リスクの高い地域では安全な住まい方をするための制度設計といったソフト分野での取り組みをハードと両輪で進めていくことで備えています。

試験官 A：事業を進めていくうえで、例えば利害関係のある関係者と調整していかなければいけない状況があるとして、貴方ならどのような対応をしますか。

わたし：まずは、そのような方々との調整が事業全体の大きなコントロールになることが多いので、事業の早い段階から調整を始め、当方と関係者の主張の妥協点を見いだせるよう、粘り強く協議の場を持つようにします。その際、常に公益確保の責務に照らし、妥協点の方向性を見誤らないようにします。

試験官 B：最後に、総監を受験した動機と取得後の抱負をお聞かせください。

わたし：受験動機は、科学技術が複雑化・巨大化し、その恩恵がある一方、社会的な影響も大きくなってきている中、事業を専門技術力のみならず俯瞰的な視点かでもって進めていくことができるという証である総監の資格を取得し、県民や関係機関等からのより一層の信頼を得たいという思いから、総監を受験しました。次に今後の抱負ですが、これまでに培った総監技術をどんどん実務の場で使うことで場数を踏み、より実践的な技術として身に着けていくとともに、組織に対して役所業務における総監の管理技術の意義を伝えていき、そのプロである総監技術士の活用を促進するよう、働きかけていきたいと考えています。

試験官 A：それではこれで口頭試験を終わります。お疲れさまでした。

わたし：どうもありがとうございました。よろしく申し上げます。(一礼)